

# 吉野作造記念館だより

〔編集・発行〕特定非営利活動法人 古川学人

## —もう一度『熱き想い』を—

### 吉野作造記念館十周年を迎えて

館長 長田 中昌 亮

現在記念館前に建つ吉野作造の記念碑を市民会館敷地に建設したのは、一九六六（昭和四十一）年十一月であった。吉野先生を記念する会の当時の事業は次のようなものであった。一部を記してみる。

昭和三十三年十一月 古川高等学校文化祭に吉野博士について研究発表及び資料の展示会を開催。  
昭和三十四年十二月 吉野先生・生誕八十年記念講演会を開催。

「吉野作造とその時代」 明大教授 田中 惣五郎氏  
「クリスチャン 吉野作造」 福大教授 池田 哲郎氏  
文化講演会を開催。

昭和三十八年三月 「若き吉野作造とその時代」 仙台第一高教諭 金沢 規雄氏  
昭和三十八年十一月 吉野博士著作の展示会を市図書館に於て開催。小史の発行。  
昭和三十九年二月 NHKテレビ放送「暁鐘」資料提供。  
昭和三十九年七月 記念事業として吉野博士記念碑建設及び記念室設立を決定。  
昭和四十年十一月 吉野博士記念碑建設計画の確立。  
昭和四十一年三月 市内高校（5校）一般より論文募集。

これらの事業は殆ど会費と、市民の方々の寄付金で賄ってきたのである。

今年には記念館十周年である。入館者は開館の頃をピークに年々減少が続いた。何故だろうか。「NPO法人古川学人」が古川市より委託を受けてから満二年。漸く下り坂に歯止めをかけることができた。知恵をしぼり、開館前・開館年に戻り、吉野先生に対する『熱き想い』をもう一度とりもどしたい。

今年には日露戦争百年である。翌一九〇五年のポーツマス条約の調印をめぐって国民の暴動がおこった。特に日比谷焼打ち事

件は大騒動になり警察署・政府系国民新聞社などが焼き打ちにあった。警察だけでおさえることができず、軍が出動し戒厳令がしかれた。皮肉にもこの暴動

がきっかけになって、いわゆる「大正デモクラシー」の時代の到来となった。

「憲法」・「自衛権」・「愛国心」・「二大政党論」など、吉野の論文は、まことに今日的であり、学ぶことが多い。「吉野を皆さんと一緒に学ぶ」という視点で私達は、記念館を運営していきたいと思う。今年こそ皆さんのご要望をよく受け止め、多くの方々のご来館をいただけるよう

努力したいと思う。

もう一度『熱き想い』を。



鏡花水月：1966年（昭和41）11月7日、吉野先生の記念碑除幕式のとき記念品として配った書である。

## 「兄おとうと」を観て

昨年四月四日、記念館に突然名誉館長井上ひさし氏が見えました。吉野先生をテーマにした劇をつくるための取材でした。同時刻、館に居合わせたこともあって、数時間ご一緒することにになりました。

劇作の基本資料というのか、この劇に関する年表を拝見しましたが、そのち密克明な計画にただ驚くばかりでした。

五月十七日、東京紀井国屋ホールでその劇「兄おとうと」を観ることができました。吉野先生兄弟は、わが古川出身という親しさはあっても、兄は学者で思想家、弟は官僚で政治家、「国家とは」「憲法とは」を問いつけた人たちだけに、どんな劇になっているのか、心おだやかではありませんでした。

しかし、「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく」いつもの井上流に、楽しく、しっかり考えさせる見事な評伝劇に、深い感銘を受けました。

ことし、二月四日の新聞で第十一回読売演劇大賞の発表がありました。大賞・最優秀演出家賞に、「兄おとうと」の演出をした鶴山仁氏、スタッフ優秀賞に劇中のピアノ演奏をした朴勝哲氏がそれぞれ入賞されました。嬉しいことです。古川公演が待たれます。

（伊勢 行雄）